

研究所だより

第455号
2023年 3月22日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“ 白い光の中に 山並みは萌えて 遙かな空の果てまでも 君は飛び立つ
限りなく青い空に 心ふるわせ 自由を駆ける鳥よ 振り返ることもせず
勇気を翼にこめて希望の風に乗れ この広い大空に夢をたくして ”



『旅立ちの日に』

1991年（平成3年）埼玉県秩父市立影森中学校の教員によって作られた合唱曲

〔 作詞：小嶋 登（校長） 作曲：坂本浩美（音楽教諭） 〕

～希望に満ちた春がやって来ました！～

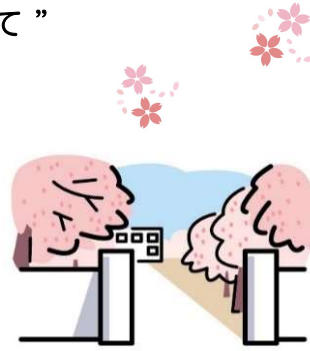
桜の便りに心弾ませるころとなりました。過ぎ去ってみれば1年は本当に早いですね。

2022年度も新型コロナウイルス感染症は終息することなく、次から次へと出現する感染力の強い変異株の影響で基本的な感染予防対策（マスクの着用、手洗い・うがい、三密回避、ソーシャルディスタンスの確保、換気など）を強いられるなか、授業改善、行事等の見直しをしながら取り組んできた日々だったのではないのでしょうか。このような状況下での学校経営、学級経営、教科経営等、本当にご苦労様でした。

さて、この春をもって退職される先生方、長い教員生活の中で多くの子どもたちを育てられてきたことでしょう。今春からは自由人となります。健康に留意しながら、第二の人生を謳歌してください。益々のご活躍とご健勝を心からお祈りいたします。

現任校を離れ新しい職場へ赴かれる先生方、在任中は子どもたちのために、また清水の教育の発展・向上のためにご尽力を賜りまして、本当にありがとうございました。先生方が残された教育実践を財産とし継承していきたいと思っております。新任地でのご活躍をご期待しています。

引き続き清水市内小中学校に在職される先生方、この1年間、様々な事柄があったことでしょう。次年度につながる成果や課題も明らかになったことと思います。実践を積み重ねたなかでの成果と課題です。次年度もそれらを活かしながら、清水の子どもたちのためにご尽力いただければ幸いです。



（月刊「日本教育」 令和4年8月号）

チーム学校づくり ～スクールカウンセリングの視点から～ 不登校に関するカウンセリングのこれから

いえちが さなえ
家近 早苗教授（大阪教育大学）

文部科学省の調査によれば、令和2年度までの不登校児童生徒数は8年連続で増加し、令和2年度は、小・中学校における不登校児童生徒が19万6127人（前年度18万1272人）と過去最高となっています。しかも、この数には新型コロナウイルス感染症関係の欠席は含まれていません。不登校には「学校との折り合いが悪い場合」、「学校と距離をおいている状態」があり、また家庭に事情がある場合（児童虐待やヤングケアラーなど）もあります。

不登校の子どもへの援助では、折り合いの3つの視点が役立ちます（石隈・家近、2021）。1つ目は楽しいこと、不安や緊張が少ないことです。学校生活が楽しいと思える子どもは、嫌なことがあっても乗り越えることができます。2つ目は、よい人間関係です。教師の関係や友人との関係は、学校での居場所ともなる大切なものです。友人や教師との関係は、子どもを支えます。3つ目は、学校に行くこと、自分のしていることの意味がわかるということです。何のために勉強するのか、学校に行くのかがわかることで、頑張れる子どももいます。不登校の子どもは、これらが希薄であることが多く、一つでよいので強くするように働きかけることが状況の改善に役立ちます。

筆者が小学校で担任をしていた時に、不登校の子どもがいました。授業のプリントをもっての家庭訪問や、保護者との面談など、一人ですべてを行っていたように思います。その頃は、チーム援助という考えがまだなく、担任が一人で抱えるのが当然という時代でした。しかし現在は、チーム学校で子どもへの援助をすることが、学校現場に浸透してきています。子どもがSOSを出せること、援助者がそれに気づくこと、また教師も同僚に「助けてほしい」ことを出せる雰囲気があることが重要だと思います。



学校生活は子どもの成長や発達を促進する場であり、たくさんの学ぶ機会を提供してくれます。多様な子どもが折り合いをつけやすくなるよう学校教育を柔軟にしながら、教育支援センター（適応指導教室）など地域で学ぶ場所の活用も必要です。子どもによっては休養が必要ですが、学習の継続を援助したいと思います。子どもの援助資源である教師・保護者・SCやSSWなどの専門家、地域の力を活かして、周囲の大人たちが協力できる「チーム学校」となり、楽しく、安全な「学校（学ぶ場）」を目指したいものです。

（引用文献）
石隈利紀・家近早苗 2021スクールカウンセリングのこれから 創元社（19章）

第3回教育研究所運営審議会～

3月9日（木）に第3回教育研究所運営審議会を開催しました。

本年度の事業実績「1. 教職員の資質向上の取組、2. 転入教職員研修会の開催、3. 調査研究の推進、4. 豊かな心と健やかな体の育成の取組、5. 情報教育に関する事業、6. 資料収集に関する事業、7. 刊行物、8. 教育研究所運営審議会、9. 教育研究所連絡協議会」の9項目について報告、協議、意見交換を行いました。

1. 教職員の資質向上の取組

【補助事業】

- (1)教育研究推進事業：教育研究集会〔全体会（講演） 部会研修〕の運営
 ・教研推進委員会の開催（年6回 含一日教研準備会）
 [第1回4/12 第2回7/26 第3回8/2準備会 第4回10/7 第5回12/8 第6回2/28]
 ・教研活動
 [①組織教研4/20 ②代表者会5/26 ③一日教研8/3 ④半日教研11/9 ⑤総括教研]
 （9部会事業実績）

- (2)教育研究活動事業：研究協力校〔2校：三崎小・清水中〕の取組（事業実績）

2. 転入教職員研修会（地域学習会）の開催〔年2回：①5/27 ②6/10〕

3. 調査研究の推進

- (1)外国語・英語教育（授業づくり・授業改善）についての研究

- ・小中学校の授業・教育活動支援
- ・教研外国語部会・中学校教科会（外国語）支援
- ・教材の開発・研究等
- ・英語意識調査（3小学校）



- (2)【連携・支援】学力向上検討委員会
 [年2回：①9/22 ②2/9]

- ①各校の分析状況について
- ②今後の学力向上に向けた取組について

4. 豊かな心と健やかな体の育成の取組

- ①定期的な学校訪問（児童生徒の状況把握・情報交換等）
- ②教育支援コーディネーター（あすなろネットワーク）連絡協議会の開催
 [年4回：①5/31 ②8/22中止 ③12/19（講師招聘） ④1/26]
- ③適応指導教室「あすなろ教室」への支援
- ④SSW・ORSC・YCCとの連携
 （スクールソーシャルワーカー・アウトリーチ型スクールカウンセラー・ヤングケアラーコーディネーター）

5. 情報教育に関する事業

- ・HPの更新等…GIGAスクールサポーターによる支援
- ・「土佐清水市のくらし」WEB版デジタルbookの作成（試作版）、配信
 *GIGAスクールサポーターによる支援

6. 資料収集に関する事業

- ・教育資料（図書・教材など）の購入・紹介
 *市民図書館所蔵DVD（平和教材等）の紹介



7. 刊行物

- ①『研究所要覧』の発行
- ②『研究所だより』の発行（4月No.442～3月末No.455）
- ③研究集録「清水の教育」の発行（ファイル・CD）
- 8. 教育研究所運営審議会（年3回：①6/7 ②11/7 ③3/9）
- 9. 高知県教育研究所連絡協議会（年2回）
 - ・第1回春季教育研究所連絡協議会（5/25 オンライン研修）
 - ・第2回秋季教育研究所連絡協議会（11/25 黒潮町大会）

◇図書の紹介◇

- ①特別支援教育はじめのいっぽ！ 国語のじかん （学研）
- ②特別支援教育はじめのいっぽ！ 漢字のじかん （学研）
- ③特別支援教育はじめのいっぽ！ 算数のじかん （学研）
- ④学びにくさのある子への読み書き支援
 いま目の前にいる子の「わかった！」を目指して （学研）
- ⑤特別支援教育はじめのいっぽ！ （学研）

①



②



③



④



⑤

